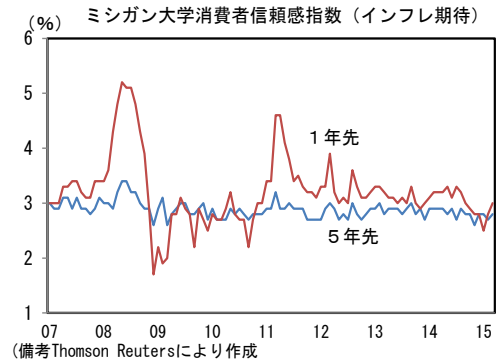
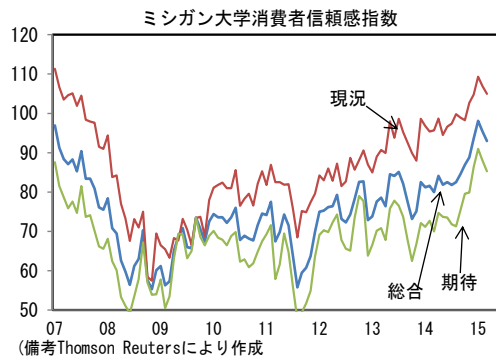
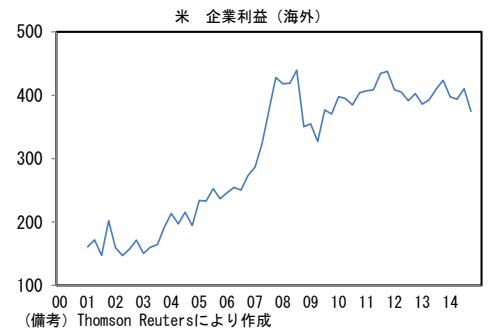
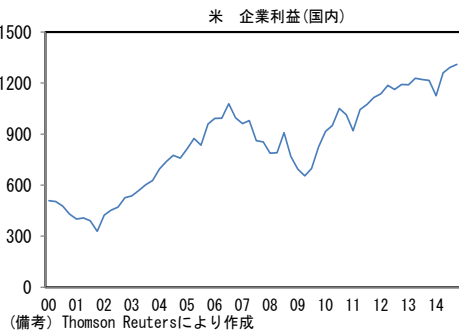
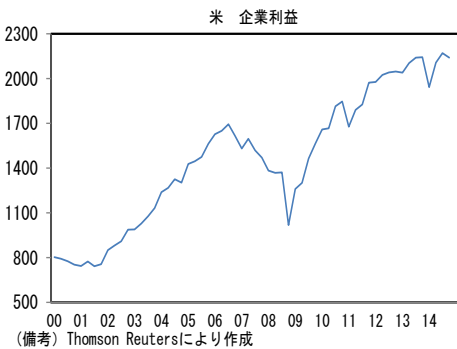


### 【海外経済指標他】～米企業利益はUSD高が逆風～

- 3月ミシガン大学消費者信頼感指数は93.0と市場予想（92.0）を上回り、速報値（91.2）から上方修正。前月（95.4）からは悪化したものの、季節外れの寒波を考慮するとまずまずの仕上がりと言える。内訳は現況（2月106.9→3月速報103.0→3月確報105.0）、期待（88.0→83.7→85.6）が共に速報値から上方修正された。期待インフレ率は1年先が+3.0%、5-10年先が2.8%で前月から変わらず。ガソリン安が一服するなか、1年先のインフレ期待は底打ち感が鮮明になりつつある。



- GDP改定値（4Q）は前期比年率+2.2%と改定値から不変（市場予想+2.4%）。同時に発表された4Q企業利益（税引後）は前期比年率▲5.5%と3四半期ぶりに減益、国内部門は+5.7%と微増を維持した反面、USD高の影響もあって海外が▲30.8%と大きく落ち込んだ。



- 3月仏消費者信頼感指数は93.0と市場予想に一致して前月から1pt改善。2ヶ月連続の改善で2010年11月以来の高水準に到達。同国の景況感は企業部門（特に製造業セクター）が停滞しているものの、反対に消費者部門は明るさを取り戻しており、全体としては緩やかな回復基調にある。

### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

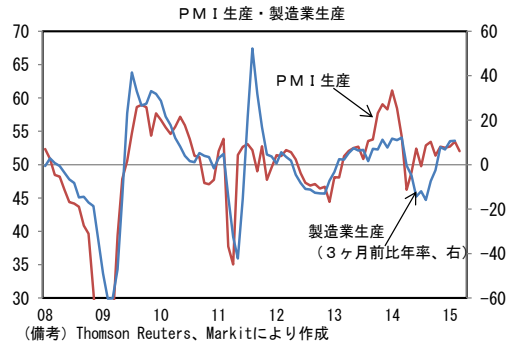
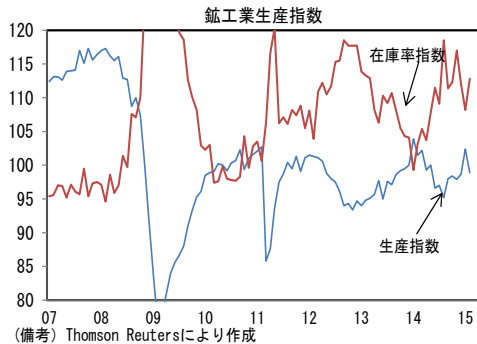
- 前日の米国株は5営業ぶりに小幅反発。値ごろ感に加え、イエレン議長のハト派な講演も支援材料。
- 前日のG10通貨は原油反落を受けてCAS、AUD、NOKが軟調だった以外に大きな動きは見られず。JPY、EURは一日を通してみればほぼ横ばい。
- 米10年金利は▲2.8bpの1.962%。米指標堅調も原油価格下落が支援材料。欧州債市場は小動き。独10年金

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

利は▲0.8bpの0.207%と低位安定。GIPS債の対独スプレッドは小幅に拡大したが、動意は薄かった。

**【国内株式市場・経済指標他】～生産：均せば増産～**

- ・日本株は直近の大幅安の反動も意識され、小幅高で寄り付いた後、もみ合い。
- ・2月鉱工業生産は前月比▲3.4%と市場予想▲1.8%を下回った。出荷減（▲3.4%）と在庫増（+0.5%）で在庫率（+4.3%）が急上昇するなどバランスも悪い。生産は1月の急伸（+3.7%）と均せば基調は上向きを維持しているが、3ヶ月前比年率では+8.0%と前月（+10.5%）から軟化しており、そのテンポはスローダウンしている。ただ、2月貿易統計の輸出がそうだったように生産統計も春節要因が色濃く反映されているため、基調を見極めるには3月データを待つ必要がある。生産予測指数は3月▲2.0%、4月+3.6%と均してみれば緩やかな増産計画。直近の実現率、予測修正率から判断すると下振れの可能性が濃厚だが、PMIの50超えは増産基調が維持されることを示唆している。



**【注目点】～強い雇用統計・（忍耐）強くないFED～**

- ・今週は日米で重要指標が目白押し。国内では日銀短観、毎月勤労統計が発表されるほか、米国ではISM、雇用統計などマーケットインパクトの大きい指標が発表される。筆者は短観（特に大企業製造業の業況判断DI）の予想比下振れと雇用統計の予想比上振れに注目。日本の経済指標が精彩を欠き、日銀の追加緩和観測が浮上するのをよそに米経済指標が力強さを示しFEDの引き締めを意識させた場合、USD/JPYに大きな影響を及ぼそう。前週末に発表された日本のコアCPIは前年比ゼロに落ち込んだが、更に日銀短観も国内経済の回復力がなお鈍いことを示す内容になれば、日銀がサプライズ緩和に打って出る可能性が高まる。発生確率は低い、頭の片隅に入れておきたいシナリオだ。米国では3月FOMCでフォワードガイダンスが変更されたため“データ次第”では6月利上げ観測が再浮上する可能性がある。“忍耐強くなる”が外れているためデータへの反応は素直になるだろう。3月雇用統計で失業率（コンセンサス5.5%）、平均時給（前月比+0.2%、前年比+2.0%）が予想より強い内容になれば、米金利上昇がドライバーとなり、USD高トレンドが復活する可能性がある。

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均※	19333.41	47.78
N Yダウ	17,712.66	34.43
D A X (独)	11,868.33	24.65
FTSE100 (英)	6,855.02	-40.31
CAC40 (仏)	5,034.06	27.71
<外国為替>※		
USD/JPY	119.23	0.08
EUR/USD	1.0872	-0.00
<長期金利>※		
日本	0.389 %	0.014 %
米国	1.962 %	-0.028 %
英国	1.542 %	-0.041 %
ドイツ	0.207 %	-0.008 %
フランス	0.501 %	0.006 %
イタリア	1.354 %	0.042 %
スペイン	1.323 %	0.057 %
<商品>		
N Y原油	48.87 $\frac{\text{ドル}}{\text{バレル}}$	-2.56 $\frac{\text{ドル}}{\text{バレル}}$
N Y金	1199.80 $\frac{\text{ドル}}{\text{オンス}}$	-5.00 $\frac{\text{ドル}}{\text{オンス}}$

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。  
(出所) Bloomberg

日経平均株価 10:41 現在

N Yダウ平均株価

USD/JPY

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。